

第6学年1組 図画工作科学習指導案

川崎市立久地小学校 田口雅之

1. 活動の指針（活動を通して育てたい力）

c ーつくる喜び

表したい思いにあったつくり方や表し方を進んで試したり、つくったりつくり直したりしながら、自分の思いを形や色でつくり出していく喜びを味わうことを大切にしていく。

2. 題材名

「千年先に残したい久地の宝」（絵で表す）－6時間扱い－

3. 活動の指針と題材の関わり

本学級の子どもたちは、友達同士は非常に仲良く、授業中の話し合い活動やグループ学習などでは、さまざまな意見を出し合い、協力して取り組むことができる。図工の授業をいつも楽しみにしていて、特に絵をかくことが好きな子が多い。造形に対する興味も高く、校内にある版画の壁画「久地の四季」「東名高速道路下児童公園」など大きくえがかれる久地の風景作品をみて、「こんなに大きい作品、どうやってつくるの？」という声が聞かれるほどである。

本題材で扱う墨絵は、5年生の時に一度体験したことがあった。当時の子どもたちは、「和」をテーマに子どもたちが考えたものを墨絵の技法をつかい楽しくかくことができた。その後の子どもたちからは「壁画みたいに大きな作品をつくりたい。」「クラスやグループでつくりたい。」という思いが聞かれるようになった。そこで、本題材「千年先に残したい久地の宝」では、墨を使って大きな画面に思い切り表現させたいと考えている。そのために、本活動においては生活班のグループで活動を行うこととする。また絵をかく道具も筆だけでなく、たわしやほうきを用意することで、大きく迫力ある絵をかくことができるように考えた。また墨の絵の良さや素晴らしさは、古くから現代に伝わっていることにも挙げられる。例えば、「鳥獣戯画」は平安時代から残っている。そこで、題材名を「千年先に残したい久地の宝」とし、墨の表現は古来から伝わっているということ、そして墨が千年も残るものだということを知らせることで、子どもたちの作品をつくる意欲につなげていきたい。

墨は白黒だけでなく、うすめたり、かすれさせたり、ぼやかしたりすることで、さまざまな表現が可能である。それこそが墨のよさである。実際にかくときには、試しがきをしながら、作品を完成できるように、多くの描画材や紙を用意しておく。自分たちの思いに合った表現を探しながらえがき、墨の魅力に気付くようにしていきたい。

さらに完成した作品をよりよく見せるための工夫も参考作品を提示しながら考えさせたい。屏風のようにして奥行きや立体感を出すのか、巻物のようにして物語風にするのか、壁画や天井画にするのかなどを考えながら、自分たちの思いに合った工夫を見つけられるようにしたい。

この学習において、子どもたちは白黒の世界でも、濃淡やかすれなどで、表現に幅ができることに気付くだろう。それこそが墨の表現の面白さである。また、古くから伝わる墨の技法でかいた作品はこの先も残るものだと実感できるようにし、自分たちがえがいた作品こそが「宝」とであると伝えていきたい。作品やそこにえがいた久地の姿に愛着をもち、一緒に作った友達との絆を感じられるように指導していきたい。

[共通事項]

- ア. 自分の感覚や活動を通して、形や色、奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ. 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

4. テーマにせまるための具体的な手立て

(1) 視点1「思い」を「ふくらませる」

- 参考作品「鳥獣戯画」「松林図屏風」「鳴き竜」などを実物に近い大きさにして提示することで、作品の迫力や墨絵のよさを体感できるようにし、子どもたちの「やってみたい」という気持ちをふくらませる。
- 「久地の宝」についての話し合いを全体ですること、久地の宝についてのイメージを共有ができるようにする。そして全員での話し合いを、イメージマップにかくことで思いをふくらませる手がかりにする。
- 参考作品を見せることで、墨の絵が千年先も残ることの素晴らしさに気付かせ、子どもたちが伝えたい「久地の宝」は何かを探す意欲付けとする。
- 題材名「千年先に残したい久地の宝」について、友達とつくった作品が「宝」として残ること、作品が千年残る友情を伝えるということ話すことで子どもたちの製作意欲を強める。
- 実際にかくときには墨の表現を試すための紙を用意しておき、様々な筆や道具、水加減で墨をかくことで、試しながら思いをふくらませる場面を保障する。

(2) 視点2「ふくらむ思い」を「かたちにかえる」

- 作品をつくる際に試しがきができるようにする。墨で色々な表現ができることを試し、自分の表現に生かせるようにする。
- 作品をつくる際、グループの設定をする。友達同士の話し合いから、思いをかたちにかえるヒントが自然にもらえるようにする。
- 参考作品を掲示しておくことで、濃淡やかすれなど様々な表現技法に気付くことができるようにする。
- 材料、道具（たわし、スポンジなど）色々用意しておくことで、思いに合った表現を見つけられるようにする。
- 教師が道具（大きな筆、ほうきなど）を使って墨絵をかくことを見せることで、様々な表現を試したいという気持ちを高める。

5. 題材のねらい

- 墨による表現の特徴をとらえ、友達や自分の思いに合った表現を見つけ、自分たちの作品に表すことができる。

6. 題材の評価規準（重観点・・・◎）

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	○墨の表現の広さに関心をもち、自分たちの作品をよりよくしようとしている。	○墨のよさをとらえ想像力を働かせて発想し主題の表し方を構想することができる。 ○よりよい構図や配置を考えることができる。	◎墨のよさを生かしながら、自分の表したい思いが効果的に表現できるような技法を見つけ、工夫してえがくことができる。	○参考作品を見て、墨絵の面白さやよさに気付くことができる。 ○できあがった作品を見たり、その作品についての友達の思いをきいたりすることで、久地の宝にこめた思いを味わうことができる。

7. 準備

《児童》墨 鉛筆 その他自分の考える描画材

《教師》参考作品「鳥獣戯画」（伝鳥羽僧正覚猷筆 平安～鎌倉時代 東京国立博物館蔵）

「松林図屏風」（長谷川等伯筆 桃山時代 東京国立博物館蔵）

「鳴き竜」（狩野永真安信筆 江戸時代 日光東照宮薬師堂蔵）など

半紙（墨の練習用） 模造紙（練習用） 障子紙 ダンボールなど

8. 指導と評価計画（6時間扱い）

時間	○活動内容 ☆★予想される子どもの姿	◆教師の働きかけ 【評価規準】・・・評価方法
<p>一次</p> <p>45分</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">日本の様々な作品にふれよう！</p> <p>○平安時代につくられた「鳥獣戯画」を始め、「松林図屏風」や「鳴き竜」などの日本の美術を鑑賞する。</p> <p>☆墨の表現のよさや面白さに気付いている。 「こんなに大きく墨でかかっているんだね。」 「巻物や屏風の形で墨絵をかいているのがおもしろい。」 「墨の白黒だけでかかっている。」 「遠いところはうすくかいているね。」 「墨でかすれさせているところがある。」 「ぼやけて見えるのはどうやっているのだろう。」</p> <p>○作品のつくられた時代について知る。 ☆歴史の授業との関連に気づき、古くから墨絵があることを知る。 「何百年も前につくられた作品なんだ。」 「墨でかいたものが何百年も残るなんてすごい。」</p> <p>○本題材のテーマ「千年先に残る久地の宝」を知る。 ☆どのようなものをかきたいか、思いをふくらませている。 「参考作品みたいに大きくかきたい。」 「ひとりじゃなくてみんなでかきたい。」</p>	<p>◆参考作品「鳥獣戯画」「松林図屏風」「鳴き竜」などを実物大にして見せ、臨場感をもって、墨の表現に着目できるようにする。</p> <p>◆この時、児童がお気に入りの表現を選び、理由も発表できるようにする。</p> <p>◆発表を通して、ひとによっていろいろな感じ方があることに気づけるようにする。</p> <p>◆作品にこめられた作者の思いを説明するとともに、時代を超えて残っているということに気付かせる。</p> <p>◆墨でかいた絵が何百年と残ることに着目できるようにし、思いをふくらませる手立てとする。</p> <p>◆古くから使われている墨の表現で、千年先も残る「久地の宝」をかくとしたらどんなものをどのようにかきたいかなげかける。</p> <p>◆参考作品のように大きくかくには、個人でなく、グループで力を合わせてかけるようになげかける。</p> <p>◆参考作品のように様々な形（屏風、巻物など）で自分たちの思いに合った表現をしてもよいことを伝える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【関】・・・活動の様子・つぶやき・発言 【鑑】・・・つぶやき・会話・発言</p>
<p>二次</p> <p>135分</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">千年先に残したい久地の宝は何か、話し合おう！</p> <p>○自分たちが思う「久地の宝」を全体で発表し合う。</p> <p>☆「久地の宝」についての意見を発表している。</p> <p>。「久地には円筒分水があるよ。墨でかけないかな。」 「近くには梅林があるよ。」 「梨もある。」 「養鶏も盛んだから鶏をかきたい。」 「最近では高層マンションもたくさんあるよ。」</p> <p>★どんなものが久地にあるのかわからない。</p>	<p>◆様々な意見が出ても、それらを認める。従来の墨絵、日本画でかかれなかったようなもの（マンションやビルなど）が出てもよい。</p> <p>◆発表を聞いたり、40周年記念誌「久地の里」や校歌や「久地の里」の歌詞などを見たりしてイメージをふくらませてもよいと伝える。</p>

	<p>○グループに分かれて、墨を使ってどんなものが作れるか話し合う。</p> <p>☆自分の意見を発表したり、友達の見聞を聞いたりしながらどんなものかかきたいか話し合っている。</p> <p>「有名な円筒分水を墨でかきたい。」 「久地の四季をかきたい。」 「学校の桜をかきたい。」</p> <p>○作品をよりよく見せるための工夫を考える。</p> <p>☆屏風や襖、壁画などの表現を見て、自分たちの思いに合う表現方法を話し合っている。</p> <p>「ただ貼るだけじゃなくて、掛け軸みたいにして飾りたい。」 「屏風は絵が立体的に見えそう。」 「四季をかくなら巻物にして物語風にしてもいいね。」</p> <p>○アイデアスケッチをかく。</p> <p>☆友達の作品を参考にしながら、いろいろ考えてかいている。</p> <p>「真中に円筒分水をかいて、周りを桜にしたい。」 「鶏は学校にもいるからスケッチしたい。」</p> <p>★思いつかず手が止まってしまっている。</p> <p>「どれにしたらいいかわからない。」 「満足できるアイデアが浮かばない。」</p> <p>○個人でかいたアイデアスケッチをもとにグループで下絵を考える。</p> <p>☆個人でかいたものをグループでまとめたり、どのようにかけばいいか話し合ったりしている。</p> <p>「桜は周りにたくさん置けばいいと思うよ。」 「円筒分水は真ん中にかこうよ。」 「遠くの景色はうすくかきたい。」</p> <p>★どのようにまとめればいいのか迷っている。</p> <p>「みんながかきたいことがうまくまとまらない。」</p> <p>○グループで何をどのようにかくか決まったら、紙の大きさを自分たちで決め、その大きさの紙を用意する。</p>	<p>◆全体の話し合いで得た着想をもってグループでの話し合いができるように促す。</p> <p>◆思いの深まり、広がりをはっきりとみとるよう努力し、その思いに共感し、励ますと共に、他の発想ができないかどうか投げかける。</p> <p>◆参考作品を使って、それぞれの表現のよさに気付かせ、必要な材料や大きさについても話し合えるようになげかける。</p> <p>◆完成したイメージマップやアイデアスケッチは、さらに発想を広げたり、深めたりするきっかけにつなげられるように掲示する。</p> <p>◆アイデアスケッチをした後、下絵を模造紙などの大きな紙にかいたり、墨の表現を試してもいいようにする。</p> <p>◆実物通りにかくのではなく、形や配置をかえてもいいことを伝える。</p> <p>◆イメージマップからイメージできた、項目を見て、連想するものを書き出してみるように投げかける。</p> <p>◆最初に個人でかいたものをまとめたり、最初からグループでかいたりするなど、そのグループに合った活動内容にしてもよいことを伝える。</p> <p>◆アイデアスケッチにこだわらず、グループで話し合っって構図や配置を変えてもいいことを伝える。周りのグループの下絵を見回してもいいことを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【関】・・・活動の様子・つぶやき・発言 【鑑】・・・つぶやき・会話・発言</p> </div>
<p>三 次 225 分 本 時</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「千年先に残したい久地の宝」をつくろう！</p> <p>○個人でかいたアイデアスケッチやグループでかいた下絵をもとに墨を使って作品をつくる。</p> <p>☆試した墨の表現や道具を実際に使って描く。</p> <p>「大きな筆で一気にかいて勢いを出したい。」 「かすれさせるためにはどの筆を使ったらいい</p>	<p>◆自分にふさわしい描材道具をオリジナルで持ち込むことも認める。</p> <p>◆和紙や新聞紙などの紙をたくさん用意し、墨の表現を試しながらかけるよう話をする。</p> <p>◆色々な筆や刷毛などを使い、にじみ、ぼかし、</p>

	<p>いかな。」 「うすくしたり濃くしたりするために水の量を工夫しよう。」 ★どのようにかいたらいいかわからない。 「思うように墨でかけない。」 ○作品をよりよく見せるための工夫を考える。 ☆自分たちに合う表現方法を考えている。 「物語風にしたいから巻物の形にしよう。」 「屏風にして立体的に見えるようにしよう。」</p>	<p>かすれなど自分の思いに合った表現を見つけられるようにする。 ◆制作途中に鑑賞する時間を取り、作品を見直したり、友達からの感想を聞いたりできるようにする。 ◆グループで一つの作品として見てどうかを考えられるように伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【発】・・・作品 【技】・・・活動の様子、作品</p> </div>
<p>四次 270分</p>	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>出来上がった作品を見合おう！</p> </div> <p>○グループそれぞれの工夫を発表する。 ☆作品をかいたときの工夫、掲示するときの工夫などを発表する。 「円筒分水を真中にかいて、周りに桜やマンションをかいて、自分たちが残したいと思うものを入れた。」 「久地の町の緑が残るように梅林をかいた。」 「自分たちが過ごした学校を千年先の人にどんな場所だったか知ってもらいたかったからかいた。」 ○グループで一つの作品として見たときの感想を伝え合う。 ☆作品にこめられた思いを聞いて、感想を伝えている。 「久地の円筒分水はやっぱりこの先も伝えていきたいものだと感じた。」 「自分たちが残したいものをこの絵がずっと先まで伝えられるといいな。」</p>	<p>◆発表の前に広い場所で作品をゆっくり見る時間をとる。近くで見たり、遠くから見て、どんな表現があるか見つけられるように伝える。</p> <p>◆絵だけでなく作品をよりよく見せるための工夫（屏風や襖、天井画）にも着目させ、どんな思いを表現したかったか考えられるようになげかける。</p> <p>◆クラスで作品といっしょに記念撮影などして、卒業アルバムにのせるなど、作品に愛着をもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【鑑】・・・発言、鑑賞カード</p> </div>

9. 本時の活動と指導（4／6）

（1）目標

○アイデアスケッチや下絵をもとに、墨絵の表現を試しながら、自分たちの思いにあうように久地の宝をえがく。

（2）展開

<p>○活動内容 ☆★予想される子どもの姿</p>	<p>◆教師の働きかけ 【評価規準】…評価方法</p>
<p>○アイデアスケッチと下絵を持ち寄り、どのような絵をどこに描くか確認する。 ○障子紙に墨で描くための道具を確認する。</p>	<p>◆作品の完成までの見通しをもてるように、下絵やかくための道具の使い方など流れを確認する。 ◆道具の使い方を実際に見せ、様々な表現方法を見つけたいという気持ちを高められるようにする。</p>
<p>「千年先に残したい久地の宝」をつくろう！</p>	
<p>○アイデアスケッチをもとに墨を使って作品をつくる。 ☆試した墨の表現や道具を実際に使って描く。 「大きな筆で一気にかいて勢いを出したい。」 「かすれさせるためにはどの筆を使ったらいいかな。」 「うすくしたり濃くしたりするために水の量を工夫しよう。」 ★どのようにかけばいいかわからない。 ○友達の作品を鑑賞して表現の多様さにふれる。 ☆作品を鑑賞し、友達の思いに気付いている。 「大きな筆で一気にかいていて、勢いを感じる。」 ○作品をよりよく見せるための工夫について考え、次の活動への見通しをもつ。 ☆巻物、屏風などの形にするための準備を確認している。</p>	<p>◆自分にふさわしい描材道具をオリジナルで持ち込むことも認める。 ◆和紙や新聞紙などの紙をたくさん用意し、墨の表現を試しながらかけるよう話をする。 ◆色々な筆や刷毛などを使い、にじみ、ぼかし、かすれなど自分の思いに合った表現を見つけられるようにする。 ◆途中でアイデアスケッチを付け加えたり、変えたりしてもよいことを伝える。 ◆途中でも友達の試した表現やつくっている作品を見てもよいことを伝え、思いをふくらませられるように促す。 ◆鑑賞する時間を取り、作品を見直したり、友達からの感想を聞いたりできるようにする。 【発】…作品 【技】…活動の様子、作品</p>

1000年先に残したい久地の宝

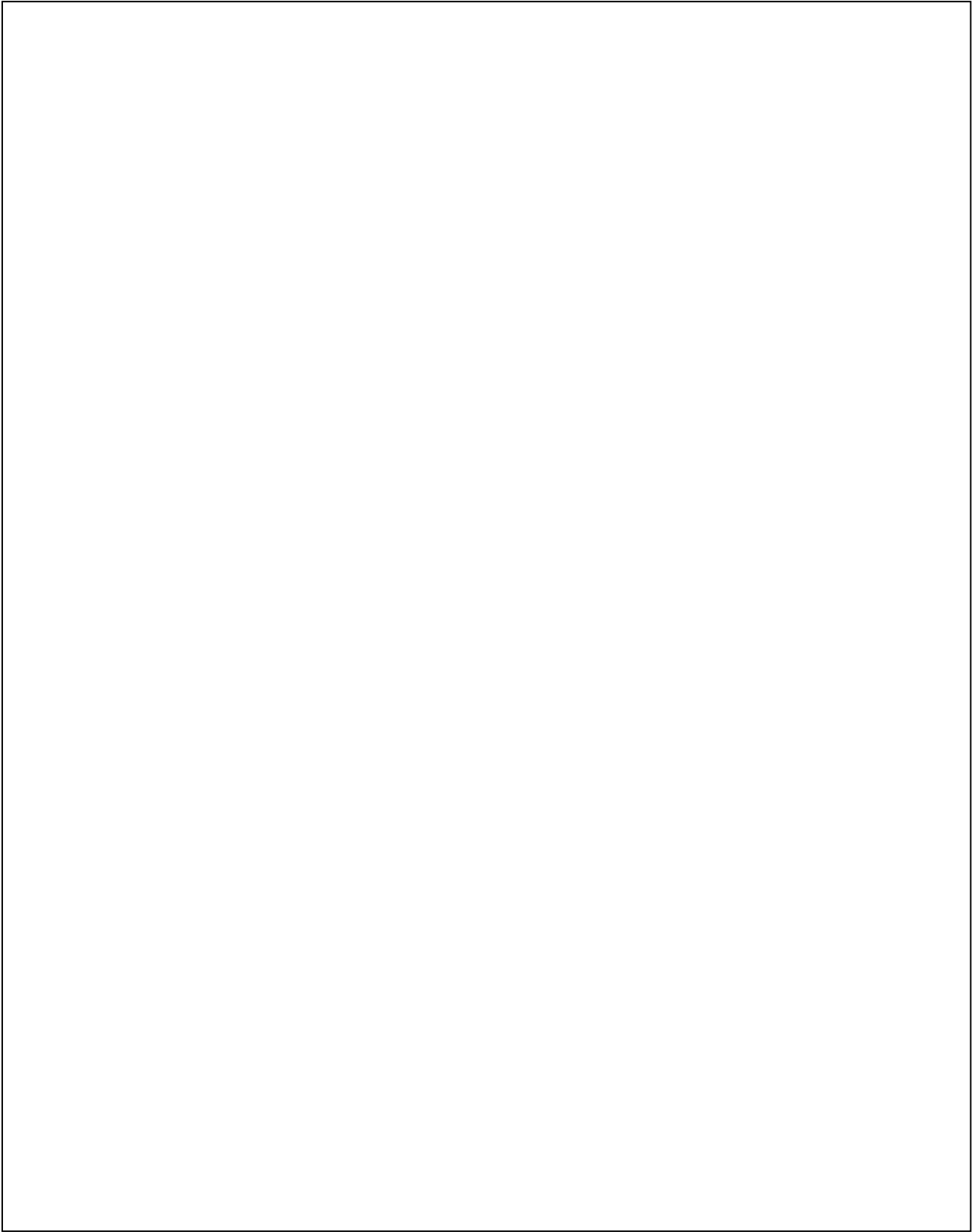
名前 _____

○「久地の宝」と聞いて、あなたの考えるものとは？

○グループで話し合ってみよう。（イメージマップ）

久地の宝

○イメージマップをもとに下絵をかいてみよう。



下絵をもちよったり、グループで話し合ったりして、
「1000年先に残したい久地の宝」を完成させよう。

